

サーサナ

第5号 仏暦2551（西暦2008）年11月25日

畏敬の念

畏れとは迷いなり	何ものもことなし
----------	----------

小学校高学年および中学校学習指導要領（道徳）には、「人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ」という一項があります。一見するとけっこうなことのように思われるかも知れませんが、しかしちょっと待って下さい。

畏敬とはどういうことでしょうか？それは、畏（おそ）れ敬う、ということです。敬うのはよいとしても、畏れるというのはどうでしょう？仏教では、畏れは克服すべき感情です。観音菩薩は、私たちに畏れの無い精神を与えて下さる「施無畏者」である、と観音経には説かれているように、畏れることのない精神こそが仏教徒の目指す方向です。それゆえ、学校の道徳の授業で、畏敬を教え込んでもらっては困るのです。

畏れとは、恐れ・怖れとも共通する感情ですが、微妙に違いがあります。具体的には、神罰・祟り・呪いといった、理性ではとらえられないような、それこそ人知を超えたものへの恐怖心を意味します。そして、これが原始宗教の出発点でもあります。例えば、雷を「天神の怒り」として畏れ、天満宮を造ってお祀りする、ということがあります。

私たち念仏の行者にとっては、しかしながら、神といえども畏れの対象ではありません。親鸞聖人の御和讃に、「南無阿弥陀佛をとなふれば 梵帝釋帰敬す 諸天善神ことごとく よるひるつねにまもるなり」「天神地祇はことごとく 念佛のひとをまもるなり」とありますように、逆に神の方が私たちを敬い守るのです。

神の罰・祟り、あるいは法的刑罰を畏れて悪事をなさぬのではなく、慈愛の心から悪を制する、これが本来の道徳でしょう。

法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。

十二月 成道会（じょうどうえ）

成道会は、釈尊の成道（悟りをひらかれたこと）を記念して行われる法要です。日本では、釈尊は12月8日に成道されたと伝承されています。

*日 時 12月7日（日）午前10時～11時半【受付開始は午前9時半】

*内 容 勤行（和文仏教聖典、正信偈）、
DVD上映「おしゃかさまの悟り」

*持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）、念珠、肩衣（お持ちの方）、お布施

*記念施本 『法語カレンダー』（真宗教団連合）、
『今日のことば』（東本願寺出版部）

*終了後、本堂にて7日命日の御家族による合同の月忌法要を勤めます。（ご自宅への訪問はありません）

十二月 門徒総会

上記成道会に引き続き、門徒総会を開催します。この一年間の活動報告及び今後の活動計画についての話し合いをします。皆さまのご意見をお聞かせ下さい。終了後、お斎（忘年会？望年会？）があります。出席される方は、11月末までにご連絡下さい。参加無料です。

*総 会 正午～午後1時

*お 斎 午後1時～

一月 修正会（しゅしょうえ）

修正会とは、新年を祝い、また求道の決意を新たにするための法要です。家族揃って、初詣を兼ねて本堂にご参拝ください。

*日 時 1月1日（木）午前10時～正午【受付開始は午前9時半】

*内 容 勤行（嘆仏偈・和訳正信偈）、年頭法話、仏典童話ビデオ上映

*持ち物 『和訳正信偈』、『真宗大谷派勤行集』、念珠、肩衣（お持ちの方）、お布施

*記念品 鏡餅（小学生以下のお子さんには菓子袋）

*ぜんぜいの接待があります。

*終了後、本堂にて1日命日の御家族による合同の月忌法要を勤めます。（ご自宅への訪問はありません）

二月 涅槃会（ねはんえ）

涅槃会とは、釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。（本来の涅槃会は2/15ですが一日繰り上げて勤めます）

*日 時 2月14日（土）午後2時～4時

【受付開始は午後1時半】

*内 容 勤行（和文仏教聖典、正信偈）

DVD上映「おしゃかさまの最後の旅」

*持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）、念珠、肩衣（お持ちの方）、お布施

*記念品 ブレスレット念珠



法務休暇等のお知らせ

下記の期日を法務休暇とさせていただきます。

12月23～28日、2月7～8日

本堂にて下記のとおり一座読経いたしますので、上記期間が命日に当たられるご家族の方は、都合がつく限り、どうぞご参詣下さい。

12月22日午前11時、2月6日午後1時

永代経懇志お礼

下記の方々から永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相続されますことを願いたします。

9月29日 釋健浄（願主・岡田様、10万円）

ユニセフ募金の報告

本堂の賽銭箱に入れられた皆さまからの浄財は、財団法人・日本ユニセフ協会に寄付されます。9月26日に、17,197円を同会に振込みました。累計では、28,962円の寄付となりました。ありがとうございました。

法語カレンダー頒布について

法語カレンダー（真宗興隆会発行）を御希望の方は、電話または口頭でお申し込み下さい。無料。ただし2部以上希望の場合、1部200円お願いします。

☆連載法話☆

仏事あれこれ（5）～御霊前か御仏前か？～

以前、テレビのクイズ番組で、「四十九日法要に持参する金封の表書きは御霊前？御仏前？」という問題が出されました。私は「仏式法要なら当然御仏前」と、思いました。しかし...答は「御霊前」だというではありませんか！続けて“解説”があり、それによると、「故人は四十九日までは成仏しておらず霊の状態にあり、それを過ぎてから仏になるから」とのこと。

しかし、はっきり言いますと、これはマチガイです。大間違い。仏教では実体的な霊の存在を認めていない、のです。その後、インターネット検索をしてみますと、サイトによっては、「なお、浄土真宗は往生即成仏の教義から御霊前とはいわない」と但し書きのあるものもありました。これは間違いではありませんが、「浄土真宗の教義にこだわって」御霊前とはいわない、というわけではありません。

釈尊以来の正統仏教が靈魂の存在を認めないから、というのがその理由です。仏教の根本の教えの一つである「諸法無我」の「我」とは、（インドの言葉でアートマンまたはアッタといいますが）「靈魂」のことです。ですから、浄土真宗だろうが禅宗だろうが上座部だろうが、「霊位」や「御霊前」という語そのものを使うことはありえません。ただ、精神の同義語として「霊」を使うことはあります。

ところが、インターネットでも市販本でも、さらには僧侶さえ、平気でマチガイを書いていることが多いのです。僧侶が霊を持ちだすのは、単なる無知、または商売上の策略でしょう。より悪質なのは「霊の障り」とか言い出す場合で、いわゆる靈感商法＝詐欺ですので、お気をつけ下さい。

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弑（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 FAX：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>